

福岡教区今年度の目標…「信仰の伝達」

小教区今年度のテーマ…「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」

主のご降誕のお喜び申し上げます！

主任司祭 遠山満

今年のクリスマス、皆さんは、サンタさんにどのようなプレゼントを申込みましたでしょうか。最近耳にした物で私が興味を引いた製品は、姿勢を矯正するスニーカーです。現代は、お金があれば何でも手に入る時代ですが、そのような物が売られている事に、私は驚きを禁じ得ませんでした。

けれども、その後考えたのです。姿勢を矯正するスニーカーがあるのなら、生活習慣を矯正するものはないのだろうか。私たちの霊的な生活を矯正するものは、ないのだろうかと思ってしまいました。何故なら、私たち司祭や修道者にとって、霊的生活を矯正していくことは、生涯の務めですから、そのようなものがあるなら、私たちは真っ先に手に入れようとするのではないかと思います。恐らく、それは目に見えるものでもなく、お金でも手に入らないものだと思いますが。

ところで、先日行われた教会学校のクリスマス会の時、子供たちに次のような質問をしました。「サンタクロースさんとイエス様は、どんなふうに繋がっていますか」。返って来た答は、「両方とも優しい」でした。そうです。その通りです。私の質問の仕方があまり良くなかったので、次のように尋ねました。「何故、サンタクロースさんは、あんな風に困った人や子供たちに、気前よく、プレゼント配ることができるのでしょうか」。しばし、沈黙でした。それで、次のように申しました。「サンタクロースさんも、素晴らしいプレゼントを神様から頂いたので、他の人に気前よくプレゼントを配ることが出来ました。そして、今でも配っておられます。そのプレゼントとは、何でしょうか」。この質問も、少し難しかったようです。けれども、最終的に一人の子が、「イエス様」と言ってくれました。そうです。イエスさまこそ、私たちにとっての最高のクリスマスプレゼントです。サンタクロース、つまり聖ニコラスが困っている人たちを助けたのも、イエス様という救い主を、神様からプレゼントとして頂いたので、その救いの喜びを分かち合おうとして、あのような生き方をしたのです。

私たちも、このクリスマスの時期、私たちに救い主として、父なる神様からの贈り物として来て下さったイエス様の事を黙想しましょう。そして、私たちも、もう一人のサンタさんに成ることが出来ますように、恵みを願いましょう。

皆さん、クリスマス、おめでとうございます。



拡大信者会議事録

平成 26 年 12 月 14 日 (日)

議題

1. クリスマス・ミニバザー

献金 326,504 円 (手芸 279,117 円、食堂 29,987 円、コーヒーコーナー17,400 円)、
個人献金 7,000 円と合せて 333,504 円を教会建設費借入金返済に充てる

2. 行事予定

12 月 21 日 待降節黙想会 午前 9 時 30 分～15 時

12 月 24 日 クリスマスイブ ミサ 18:00、 20:30

12 月 25 日 クリスマス ミサ 10:00

12 月 31 日 朝ミサ 6:30 深夜ミサはなし

1 月 1 日 元旦 ミサ 11:00

1 月 4 日 (日) 新成人(対象者10名)ミサ 10:00 (松山 怜美さん、黒崎 瑠依さん、
上尾 若菜さん、牧山 能大さん、峯 源基さん、船橋 ゆずりさん、
田中 望美さん、片山 慎也さん、藤原 弥紗さん、黒崎 ひかりさん)

1 月 18 日 (日) 新年会

3. 組織改正について

「女性の会会長」を⇒「女性の副会長」に変更

役員任期と選出方法を確認

1 月の拡大信者会で次期役員選出について検討する

*今野恵美子さんの意見：バザー、営繕、パーティーのチームはあるのに、典礼委員会は作らないのか？⇒今後検討する

4. その他

①古川拓磨さんの提案：名札を作りましょう (光が丘教会では各自のレターボックスに名札が入れてあり、教会の行事に参加する時は名札を付ける)

②福島のリンゴの販売：収益は南三陸町の仮設住宅の方々の支援のために使わせていただきます

③ワイン販売：収益を福島県の子どもたちを夏休みに福岡に招待する第 3 回「博多へきんしゃい」の旅費に使わせていただきます

④クリスマス・カード：遠隔地に単身赴任の家族や学生さんに送って、笹丘教会がいつも遠くにいる人を思っていることを知らせるために使ってください。





クリスマスに寄せて

神父様より



「思い出の中のクリスマス」

自分が幼稚園に関わっていることも手伝ってか、待降節・クリスマスが巡ってくるたびに必ず甦ってくるのは幼稚園年長で演じた聖劇のことです。私が初めて体験した集団生活、社会生活の場、それは静岡聖母幼稚園、どこにもあるような名前の幼稚園ですが、私はこの幼稚園が大好きでした。今のように園の送迎バスなどない時代です。私は路線バスに乗ってこの幼稚園に通っていました。駿府城の外堀と中堀の間には官公庁や病院、学校が並んでいて、その一角、雙葉学園の隣に教会と幼稚園があります。園舎と聖堂の間に広がる園庭、奥には司祭館とルルド、大きなコイが泳いでいた池、そして立派な鳥小屋が二つ。ぼくが通っている教会の幼稚園はすごいんだぞ！近所の仲間に話したことはありませんでしたが、それは私の小さな心の中の大きな自慢でした。

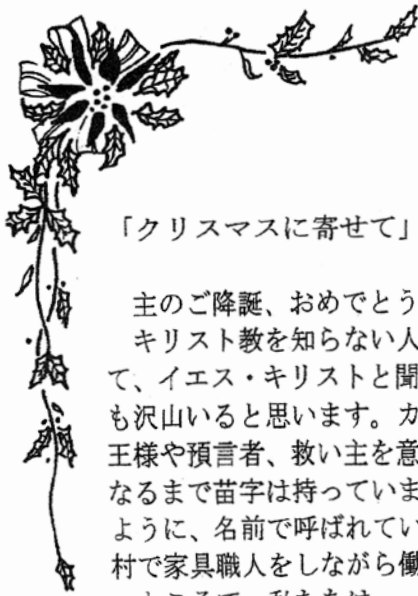
さて、肝腎の聖劇はと言えば、「まさきちゃん、あなたはヨゼフさまです」担任の先生からそう言われて、ちょっぴり誇らしかったのを思い出します。「トントントン、私たちはナザレから来た旅人です。今晚ひと晩とめてください」マリアさま役の子の手を引いてベツレヘムで宿屋を探して歩いた、細かいところはそんな場面しか覚えていません。でも、毎日唱えた「てんにまします」や「めでたし」と共に、聖劇は幼い頃の忘れられない思い出です。その時身に着けた衣装は長い間、家のたんすの中に大切に直されていました。毎年クリスマスが近づくと母がクッキーとケーキを焼いていたのですが、その頃になると私は決まってたんすを開け、あの衣装があるのを確かめてみるのです。弟と一緒に飾ったクリスマス・ツリーの緑とヨゼフさまの衣装の色、そして母が焼くお菓子の香ばしいにおい、それは私の心の中のクリスマスの色であり、クリスマスの香りです。

(今田昌樹)



「いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、御心に適う人にあれ。」

(ルカ 2. 14)



「クリスマスに寄せて」

山野聖嗣 O S A

主のご降誕、おめでとうございます。

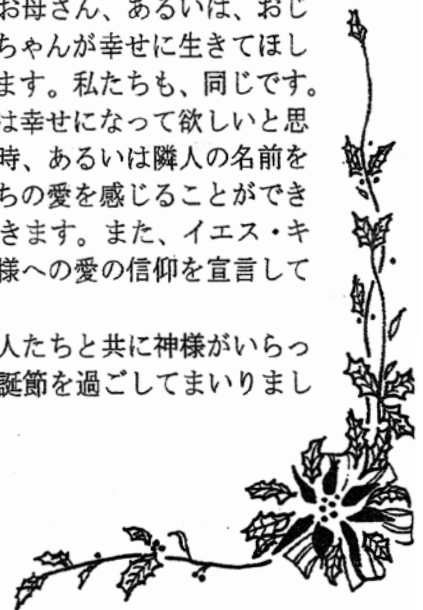
キリスト教を知らない人たちは、クリスマスイベントとしてお祝いします。そして、イエス・キリストと聞いて、イエスが名前で、キリストを苗字だと思っている人も沢山いると思います。カトリック信者ならば、キリストは、苗字ではなく敬称で、王様や預言者、救い主を意味するギリシャ語だと知っています。日本も、明治時代になるまで苗字は持っていませんでした。ですから、どこどこ村の花子さんなどというように、名前で呼ばれていました。イエス様の時代も、苗字はなかったので、ナザレ村で家具職人をしながら働いていたイエス様は、ナザレのイエスと呼ばれていました。

ところで、私たちは、一人ひとり名前を持っていると思います。私も、キョツグという名前を持っています。子供の頃、私は、母に尋ねました。聖嗣ってどういう意味は何。すると、聖嗣って意味は、聖なるものを嗣いでいく人になって欲しいと思って付けたと、母は教えてくれました。

さて、聖書には、ヨセフ様とマリア様が、救い主である赤ちゃんに名前をつける場面があります。マリア様と結婚する約束をしていたヨセフ様に夢の中で天使が現れます。そして、マリア様のお腹の中にいる赤ちゃんが生まれてきたら、「イエス」と名前を付けなさいと言われます。ヨセフ様は、神様が選んだその名前が、神様が民を罪から救うという意味を持っていることを天使から教えてもらいます。聖霊の神様によって産まれたイエス様は、父である神様から直接、名前をもらいました。

何気ないことですが、よくよく考えてみると、名前とは、人間が人間から愛されたいちばん最初の愛のしるしです。この世に生まれてきて、親から愛され付けられた最初の愛のしるしです。生まれてくる赤ちゃんにお父さんとお母さん、あるいは、おじいちゃんやおばあちゃんたちが一生懸命に考えて、この赤ちゃんが幸せに生きてほしいと思いを馳せながら産まれてきた赤ちゃんに名前を付けます。私たちも、同じです。私たちの名前も、父母、あるいは他の人からこの赤ちゃんは幸せになって欲しいと思いが込められています。ですから、自分の名前が呼ばれる時、あるいは隣人の名前を呼ぶ時に、その名前の背景に、この世で最初に愛した人たちの愛を感じることが出来ます。隣人の名前を呼ぶ時に、隣人愛を意識することが出来ます。また、イエス・キリストと私たちが唱える時、救い主であるイエス様と、神様への愛の信仰を宣言しています。

イエス様を主とあがめながら、また、隣人を愛している人たちと共に神様がいらっしゃることを心に留めながら、隣人を大切にして、この降誕節を過ごしてまいりましょう。



教会学校クリスマス会

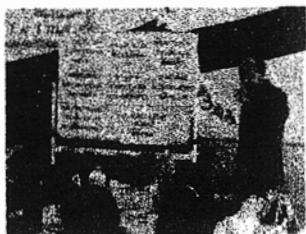


12月14日(日)ミサ後、信者会館にて教会学校のクリスマス会が行われました。21人の子どもたちが参加し、教会学校の先生方、中高生会スタッフの峯さん、幸さん、そして保護者の方々のご協力のもと、心あたたまる楽しい集いでした。

何があるのかな？お菓子も美味しそう。
楽しみ楽しみ。



ご存知、白壁さんによるクイズとマジック！
子どもたちのひらめきにはびっくり。



待ちに待った、プレゼント交換。
女の子と男の子に分かれて...
中身は何か？



みんなで記念撮影。



峯さんの読み聞かせ「クリスマスのほし」、
キラキラすてきな絵本でした。



教会学校の先生方、保護者の皆さん
からのプレゼント、チャイムの調べで
クリスマス気分が盛り上がります。



遠山神父様のお話。
「プレゼントは嬉しいですね。でも
一番大きなプレゼントはイエス様。
その喜びを分かち合いましょう。」





編集後記

私のクリスマスの思い出は、12年前の笹丘教会での洗礼式が一番の思い出だが、幼稚園の時のクリスマス会もよく覚えている。キリスト教の幼稚園だったため、聖劇があった。自分は別の劇で活躍させてもらっていたが、なぜ自分は、あのマリア様や天使が出てくる劇に出れないのだろうか？と、選ばれて、演じている人たちが羨ましかった。聖劇はきれいで素敵なイメージだった。今思えば、信者さんの子供たちが選ばれていたのだろう。

信者でなくとも馴染みのあるクリスマス。伝えよう、真のクリスマスの意味を！！

(J.N)

